

平成28年度病害虫発生予報第9号

平成28年12月2日
愛知県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	コナガ	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップによる誘殺数は は平年並	＋ ±
キャベツ	コナガ	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップによる誘殺数は やや多い	＋ ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並か多い	± ±～－
	黄化葉巻病	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない	－
	コナジラミ類	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い	＋
	ミナミキイロ アザミウマ	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない	－
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並か多い	± ±～－
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	－
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い 12月の日照時間は平年並か多い	＋ ±～－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イチゴ (施設)	うどんこ病	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない	—
	ハダニ類	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない	—

・防除対策

〔ハクサイ、キャベツ・コナガ〕

発生しているほ場ではフローバックDFやリーフガード顆粒水和剤で防除しましょう。収穫期に入っているため、収穫前日数に注意しましょう。またコナガの発生源にならないように、収穫後は残渣を速やかにすき込みましょう。

〔ナス（施設）・うどんこ病〕

発生が目立つほ場ではモレスタン水和剤やガッテン乳剤などで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

夜間暖房機が稼働しない時には送風だけでも行ない、施設内が多湿にならないようにしましょう。発生前からボトキラ水和剤をダクト内投入するなどして予防に努めましょう。発生後はアフットフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。天候がぐずつきたときなどは、フルピカくん煙剤（予防的効果）やロブラールくん煙剤（治療的効果）などくん煙剤を利用しましょう。なお、発病果や発病葉などは速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

・留意事項

ハクサイべと病が発生しているほ場があります。病斑上にできる分生胞子によって空気伝染するので、発病葉などはほ場に残さず、適切に処分しましょう。本菌はカブやコマツナにも感染するので、周辺の作物についても注意しましょう。

キャベツ菌核病の発生が多いほ場があります。発病株は伝染源となるので、早急に抜き取り適切に処分しましょう。植物体上にできる菌核は土壌中で生存して次作以降の伝染源にもなるので、遅くとも菌核が形成される前までに取り除くことが大切です。

施設野菜の灰色かび病は、例年気温が低下するこの時期から発生が多くなります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

トマトでは、タバココナジラミがトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

イチゴのハダニ類の発生量は今のところ少ないですが、施設内の気温が高く推移すると、多くなるおそれがあります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は早めに防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台12月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：30% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。